

# 場所を越えた質の高い学びをICTが実現する

— ヴォーリス学園近江兄弟社中学校・高等学校

学校  
×  
docomo



## 目的

- 情報化社会に対応できる情報活用能力の育成
- コロナ禍における突然の休校でも「学びを止めない」
- PBL(問題解決型学習)など新しいスタイルの授業への変革をめざす

## アプローチ

- 一人1台のデバイス整備でICT機器を身近な学びのツールとして活用させる
- セルラータブレットだけでなく、生徒スマホの活用や学校のPC教室解放、あらゆるものを活用して対応
- 操作研修だけでなく教え方のアイデアを共有などで慣れない教員をフォロー

## 閑静な地方での質の高い国際教育をICTの力で深める

学校法人ヴォーリス学園近江兄弟社中学校・高等学校では、2020年度の新1年生より一人1台のLTE対応タブレットを導入しています。予期せぬ新型コロナ対応で休校のまま迎えた新学期にも、学びを止めずに生徒とつながり続けることができました。6月の通常登校再開以降、授業の形や生徒たちの姿に明らかな変化が生まれています。

### 突然の休校にもしなやかに対応できた一人1台の力

創立以来、閑静な地方の環境で国際教育を行ってきた同学校園では、ICTが世界中とつながり学びの質を高める力を持つと捉えています。中学校の中島薫校長は「どこで学ぶかではなく、どう学ぶか、何を学ぶかが重要です」と話し、**ICTを手段に場所に左右されることのない豊かな学びを充実させる考えです。**

3月に新1年生へのタブレット配布ができた中学校では、**休校期間でも遠隔で生徒の生活リズムを保ちながら学習をサポートすることができました。**登校再開後は教科を問わず積極的にタブレットを活用しています。学習のまとめ、調べもの、資料の共有、学習アプリの利用はもちろん、授業支援アプリでクラス全員の意見を瞬時に共有することもできます。中学校の駒田淑久主任は、「**授業が一方通行にならず、コミュニケーションが深まりました。生徒の集中力も大きく上がっています**」と学び方の変化を実感しています。



中村集規教諭 駒田淑久教諭  
中島薫校長 大門耕平教諭

生徒自身がタブレットを管理しているので、先生が機器を準備する手間がなくなり、セキュリティや機能等の設定は一括で集中管理できて安心です。通信は学校でも家庭持ち帰り時もwi-fi優先で適宜LTEを使用。環境に左右されないインターネット接続が活用のシーンを広げます。



ヴォーリス学園

〒523-0851滋賀県近江八幡市市井町177

URL : <https://www.vories.ac.jp/>

学校法人ヴォーリス学園近江兄弟社中学校・高等学校(滋賀県近江八幡市)は、1922年の創立以来、キリスト教主義の教育を行い、特に国際感覚を身に付けグローバルに貢献できる力の教育に力をいれています。落ち着いた環境で生徒の自主性を大切にし、学習だけでなくクラブ活動や学校行事も活発に行われています。



[取材協力] 学校法人ヴォーリス学園

# 今まさに直面する新型コロナ報道を題材に生きた探究学習を



## デジタルだからこそ扱える膨大な情報量とデータ加工

中学1年生は探究学習として新聞を活用したNIE\*をグループ学習形式で行っています。新型コロナを題材に、新聞の報道状況を調べた上で、生徒一人1人が世界中の異なる国を1つずつ担当し、統計データを使って感染状況を日本と比較してレポートをまとめました。資料として京都新聞から1月以降半年分の朝刊1面の提供を受け、生徒にデータ化して共有しています。ICT担当の大門耕平教諭は「大量の紙面を紙で配布するのは非現実的で、デジタルだからこそ可能でした」と膨大な情報を扱えるメリットをあげます。また、世界の国別感染者数の推移は統計データを共有し、生徒が表計算アプリで開いて自分の担当する国の数値を検証しました。グラフを作成するようなデータの加工や、発表資料の作成なども、一人1台のタブレット環境のおかげでとてもスムーズに行えます。

## プレゼンテーションも意見交換もペーパーレス

プレゼンテーションの授業では、グループ内でタブレットを掲げて発表し合った後、2名が全員の前で発表しました。全員の資料がデータで共有されているので手元で細かく確認することができ、授業中一度も紙が登場することはありません。授業のまとめも授業支援アプリで送信します。印象に残った発表を評価し合うコメントからは、真剣に取り組んだ様子が伝わってきました。



授業を担当した技術科の中村隼規教諭は「人前で発言するのが得意ではない生徒もタブレットから送信すると意見を出せます。全員の意見共有も簡単なので、互いの思いを生徒同士が知り、より深い学びやサポートし合う気持ちにつながっています」とプラスの効果を感じています。

\*NIE：Newspaper in Educationの略。学校などで新聞を教材として活用すること。



## タブレットの活用が授業のデザインと学びの質を変える

### 生徒が授業に意欲的に参加するようになった

高等学校でも今年度の1年生から一人1台のタブレットを導入しましたが、新型コロナの影響で届くのが遅れたため、休校中は個人所有の機器を活用して動画配信などによる学習活動を続けました。6月の登校再開からいよいよ授業での活用が始まり、授業支援アプリによる意見集約や教材のデータ共有、学習アプリの活用などを積極的に行っています。

ICT担当の河合佑佳教諭は、「それまでは先生の説明を一齐に聞く形の授業を受けてきた生徒がほとんどだったので、授業中に自分が手を動かしてタブレットから意見を発信できることが新鮮なようです。授業に楽しそうに参加しています」と生徒の意欲の変化を感じています。



### 先生同士の学び合いと他学年への波及効果も

デジタル機器の扱いに慣れている先生ばかりではないので研修以外の工夫もしています。高等学校の谷口毅副校長は、「ICT活用チームの先生が公開授業を行い、単に使い方を教え合うのではなく、教育のどの活動にどう活用するのかを明確にした授業案を共有しています」と話し、先生同士の学び合いが進んでいることを示しました。

高等学校では、これまでも先生の判断で個人のスマートフォンを授業で活用できたので、河合教諭は3年生の小説『檸檬』の単元で、Clipsを使った動画制作を取り入れたところ、主人公の心情理解への意欲が増加したといいます。今回の導入をきっかけに他学年での活用もさらに発展し、1年生では一人1台の環境を生かしたよりクリエイティブな新しい授業の形が生まれそうです。

お問い合わせ

株式会社NTTドコモ

ドコモ・コーポレートインフォメーションセンター（☎0120-808-539）  
受付時間 平日午前9時～午後6時（土・日・祝日・年末年始を除く）

ドコモのホームページ 法人のお客さま  
教育の場にICTを！

[https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education\\_ict/](https://www.nttdocomo.co.jp/biz/special/education_ict/)